H29.6月

# H29年度から県外導入牛の分娩産子とバルク乳の牛ウイルス性下痢・粘膜病の検査が始まります

昨年、県内において牛ウイルス性下痢(BVD)ウイルス※の持続感染牛（PI牛）※※ が確認されました。そこで、今年度よりウイルスの侵入防止の強化および農場内の清浄性の確認のため、県外導入牛の分娩産子とバルク乳の検査を実施します。

## ※牛ウイルス性下痢・粘膜病（BVD-MD）とは?

BVDウイルスの感染を原因とし、通常は一過性の下痢や呼吸器病が起こりますが、重症例では死に至ることもあります。

また、妊娠牛では胎盤感染しやすく、流産、異常産等の繁殖障害も見られる疾病です。特に胎齢約30～130日に感染するとPI牛が生まれます。

## ※※持続感染牛（PI牛）とは？

PI牛はBVDウイルスに対して免疫寛容のために、生涯に渡って体内にウイルスを保有し、鼻汁や糞尿などに大量のウイルスを排出します。そのため、本ウイルスの感染源となりますが、外見上は健康体そのものであるため、見逃されている場合が多く問題視されています。また、母牛がPI牛の場合、子牛は必ずPI牛となります。

## BVD-MDの予防法は？

- 適切な飼養衛生管理・・・適切な初乳給与で移行抗体による予防
- PI牛の侵入防止・・・ 導入牛と分娩産子の検査でPI牛を摘発
- ワクチン接種 ・・・感染予防およびPI牛産出リスクを低減

## バルク乳スクリーニング検査

農場内の清浄性の確認およびPI牛を摘発し、まん延を防止します。
バルク乳のスクリーニング検査を予定しています。
ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

PI牛は治療法がなく、感染源となるため素早く発見・淘汰し、
農場内の感染拡大を防止することが大切です。

**お問い合わせは　南部家畜保健衛生所まで　TEL:076-257-1262**